

歩行を促す都市環境とは？

～健康まちづくり序論～

生活習慣病の発症予防のため、国は日常生活における一日の歩数の目標値を定めて、歩行を推奨しています（健康日本21）。しかし、まだそれが都市計画やまちづくりと連動しているとは言えない状況です。

海外に目を向けると、ニューヨーク市が“Active Design Guidelines”を公表し、歩行を促す都市デザイン戦略を進めています。その裏付けには、数多くの研究蓄積や実践例があります。

この輪講は、都市における健康格差に関する講義、英語文献の輪読などを通じて都市環境と健康との関係について基礎的な知識を身につけることを目的とします。加えて、特定地域を対象に実際の分析を行うことも予定しています。

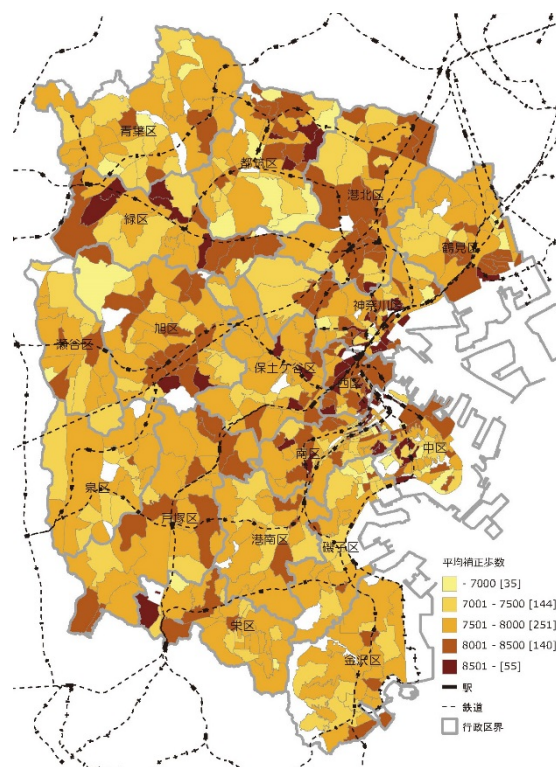


図 横浜市における大字別の平均歩数

(出典：樋野他「よこはまウォーキングポイント事業参加者の歩数傾向」、都市計画報告集)

<http://www.cpij.or.jp/com/ac/report/2015.html>

第1回～第3回

- ・学部授業「都市社会論」の受講
(医学系研究科・高木大資先生による「健康格差」に関する講義)
4/8, 15, 22 (金) 10:25-12:10@141 教室

第4回以降

- ・“Active Design Guidelines”、英語論文の輪読
- ・横浜市における都市環境と歩数について分析 (予定)

対象： 修士課程の学生を想定するが、他の学生も歓迎する
担当： 樋野公宏 (都市工学専攻准教授)
日時： 第4回以降は相談により決定
会場： 第4回以降は工学部 14号館 806号室を予定

☆関心のある学生は hino@ua.t.u-tokyo.ac.jp (樋野) まで